

会員増強に関連した会議で、会員減少、新会員の入会がはかばかしくないのは何が原因か…の討議の中で、よく聞かれる言葉が、「ロータリーの魅力が低下している」と言う意見です。果たして、そうでしょうか。

確かに、会員減少に歯止めがかかっていません。1997年6月時点で凡そ12万人だった日本のロータリアンは、最新データ(2009年8月時点)で、9万2千500人と、ここ12年余りで、凡そ2万7千500人(約23%)減少しています。会員基盤の強化はクラブを維持させる為の基本要件と位置づけ、躍起になって新会員の確保、退会防止を進めている中での現象です。

では、その間、ロータリーの魅力が著しく低下したのでしょうか。改めて「ロータリーとは…」を考えて見ます。人道的奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的基準を守る事を奨励、世界に於ける親善と平和の確立に寄与することを目指した団体…と難しく考えずに、解釈はいろいろ有るでしょうが、「会員同士が互いに自己研鑽し、奉仕の理想を護り育て、職業倫理に適った奉仕活動を進める団体」と理解して、さて、この考え方、活動に大きな変化、遜色が生じたのでしょうか。

ロータリーが100年を経過し、確かに、私たちが囲む環境は変化をしていると思います。ロータリーでなくても奉仕活動は出来る…と言う人もいますし、事実沢山のボランティア活動をしている団体があります。例会の在り方、会員としての時間とコスト、奉仕に対する成果など、改革を必要とするところは沢山あるかも知れません。しかし、こうした改革は、時間と共に常に要求されるものであり、直接、魅力の低下に結びつくものではないと考えます。

先々月号のこのページでも述べましたが、ロータリーに入会するときに、先ず「綱領を見てから入会した人」は居ませんでした。もし、入会するまで、ロータリーとはどのような団体なのか、を十分に勉強せずに入会してしまっている人が殆どだとすれば、新会員が増えないのはロータリーの魅力低下が原因との話は妥当とは言えないでしょう。間違いなく、入会后2～3年で中途退会される方の場合は、クラブ環境に問題が有るかも知れませんが。

では、何故会員増強がそれぞれのクラブにとって最大の関心事なのでしょう。申すまでもなく、クラブを維持し、意義ある奉仕活動を展開するためには、それらの活動を支援する原資が必要となります。その原資のリソースは個々の会員の「ご奉仕」に頼っている事も、また、事実であります。厳しい経済環境の下では、会員の負担を軽減することは不可欠であり、支援する仲間(会員)の数も当然、ある程度のサイズが必要とされるでしょう。

では、それぞれのクラブが、どの程度の会員数を持つべきなのでしょう。勿論、会員が多いに越した事はないでしょう。当地区にも100名を超える会員を擁するクラブが5クラブ、更に90名前後のクラブも7クラブあり、東京中央RCは300名を目標に掲げています。一方では、20名前後のクラブも国内だけで凡そ10クラブと様々です。世界に目を移しますと、北米が平均46名、西欧が43名、日本と韓国が40名弱、インドを除いたその他の国々は平均30名を切っています。別表(下記)をご参照下さい。

上記に比べて、当地区国内82クラブの平均は53.7名(2009年9月現在)です。従って、会員数の多い、少ないは、それぞれのクラブが、どの位の会員規模を目標とし、如何に効果的なクラブとして活動を展開するのか、そのクラブに合った「長期ビジョンに合った会員増強計画」を持つことではないでしょうか。

Average Club Size by Region 2009 - 10
(as of July 2009)

